

第1学年 学級活動（2）学習指導案

令和4年2月10日(木)

第1学年1組 28名

指導者：木村 行人

1 題材名 「どんなかんじかなあ」

2 題材のねらい

- ・様々な障がいがあることについて、具体的な体験を通して気付かせる。

3 評価規準

	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方について理解している。	学級生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。
学習活動に即した評価規準	①障がいのある方も含め、自分の周りには、様々な人が存在していることに気付いている。	①障がいのある方に対する関わり方を考えることができる。 ②障がいのある方に対してどのような伝え方がよいかを考えながら活動している。	①障がいのある方のことを考えながら、進んで活動している。 ②障害のある方と進んで交流しようとしている。
目指す児童の姿	障がいのある方も含め、自分の周りには、様々な人が存在していることに気付いている。	障がいのある方に対して、関わり方や伝え方を考えながら活動している。	障がいのある方のことを考えながら、進んで活動したり、進んで交流したりしている。

4 研究主題に迫るための手だて

(1) 体で感じる活動の重視

低学年分科会では、低学年の『障がい者理解』について、まずは「知る」段階と捉え、特に1年生では、障がい者理解の「はじめのいっぽ」と考える。

1年生という発達段階を考えると、何をどこまでと捉えさせるのが難しいが、“なんとなく知っている”“なんとなく分かっている”ことに対し、あえて一步踏み込み、「あっ、こんな感じだったんだ」と児童が思えるようにさせたい。

また、子供たちが自然に気付けるよう、ゲーム的な要素を取り入れた。ゲームを通して楽しみながら、体や心で感じることで、「実際にやってみると、……」という思いを子供たち一人一人がもち、気づきに結び付きやすいと考えた。さらに、その気づきを友達と共有することが、今後展開されるであろう『障がい者理解』への「はじめのいっぽ」になると考える。

(2) 車いすの小林選手（パラ水泳）の講話

第1時の道徳で扱う絵本の主人公である『ひろくん』と同様に、車椅子で日常生活を送っている小林選手(パラ水泳)を講師に招き、実際に話を聞くことで、児童の関心や意欲を喚起させることができると思う。

また、話を聞いた上で、質問タイムを設ける。1年生だからこそ、「どうして?」、「なぜ?」と思ったことや感じたことを構えたり躊躇したりすることなく質問することができる。質問の答えから素朴な疑問が解決し、動けないという感覚についての気づきがあると思う。

(3) 絵本「どんなかんじかなあ」を活用した道徳授業

第1時には、「どんなかんじかなあ」(文:中山千夏 絵:和田誠 出版:自由国民社)という絵本を道徳の教材として用いる。指導内容項目は「親切、思いやり」とする。道徳の指導内容には、障がい者理解についての項目はないが、身の周りの人のことに関心をもつことが『障がい者理解』の土台になっていくと思う。

(4) 道徳科との関連

特別活動における学級や学校生活における集団活動や体験的活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、道徳教育において果たす役割は大きい。また、特別活動の目標には、道徳教育でもねらいとしている内容が多分に含まれている。

本題材では、第1時に親切・思いやりの価値について話し合い、その実践を第2時以降に特別活動の学習として行う構成となっている。第5時には、体験を通しての感想を書かせ、第1時との考えの変容を振り返っていくことで、新たな気づきを得る児童もいると思う。教科を横断して、目指す児童像に迫っていく。

5 単元計画・評価計画（道徳科 1 時間、特別活動 4 時間扱い）

	時間	学習内容	評価計画		
			知・技	思・判・表	態度
道徳科	1	<p>○「どんなかんじかなあ」の絵本の読み聞かせを聞く。</p> <p>○主人公のひろくんのように、様々な障がいについて考え、どのようなことを感じたのかを話し合う。（B－親切・思いやり）</p> <p>めがみえない、みみがきこえないってどんなかんじかなあ？</p> <p>○次時からひろくんと同じように、追体験をすることを確認する。</p>			
特別活動	2	<p>めがみえないって、どんなかんじかなあ？</p> <p>○通常のボール、アイマスク無しでキャッチボールをしてみる。</p> <p>○次に、アイマスクとゴールボール用のボールを使い、キャッチボールをしてみる。</p> <p>○アイマスクをしていない時としているときで、どのような違いがあるのかを感じ、気づきを共有していく。</p>	①	①	①
	3 (本時)	<p>みみがきこえないって、どんなかんじかなあ？</p> <p>○フラフープアップダウンをしてみる。</p> <p>○次に、グループの中の一人が耳栓をし、同様にフラフープアップダウンをしてみる。</p> <p>○耳栓をしていない時としているときで、どのような違いがあるのかを感じ、気づきを共有していく。</p>	①	②	①
	4	<p>うごけないって、どんなかんじかなあ？</p> <p>○車いすの小林選手（パラ水泳）の話聞いてみる。</p> <p>○小林選手に様々な質問をしてみる。</p> <p>○話を聞き、感じたことや気付いたことをプリントに書く。</p>	①	②	②
	5	<p>しまったことやかんがえたことをまとめてみよう</p> <p>○様々な体験を通して、何を感じたのか思ったのかを書く。</p> <p>○学級で感想を共有する。</p>	①	①	①

6 本時の指導（3／5）

○本時の目標

- ・耳が不自由な体験を通して、障がいのある方について考えながら、進んで活動しようとする。
- ・障がいのある方も含め、自分の周りには、様々な人が存在しているということに気付くことができる。

○本時の展開

	学習内容	○指導上の留意点 ☆評価 【評価方法】
導入	<p>1 前時までの学習の振り返りをする。</p> <p>T: 前ははゴールボールをやってみたね。どうだったかな？</p> <p>C: 見えなくて、動くのが怖かった。</p> <p>C: 鈴の音をよく聞いたら、取れたよ。</p> <p>T: 今日は、耳が聞こえない体験をしていくよ。まずは、みんなで耳栓をしてみよう。どんなかんじがするかな？</p> <p>C: 聞こえないから、よく分からない。</p> <p>C: なんか、こわいなあ。</p> <p>2 本時の学習のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○“聞こえにくさ”を実感し、共有する。(着席した状態で)</p> <p>○イヤーマフを用意し、耳栓の上から付ける。</p>
	<p>耳が聞こえないってどんなかんじかなあ～フラフープアップダウンで確かめてみよう～</p>	
展開	<p>3 グループでフラフープアップダウンに挑戦する。</p> <p>①まずは、耳栓をせずに、みんなでフラフープアップダウンに挑戦する。</p> <p>②班の中で一人ずつ順番に耳栓をして、みんなでフラフープアップダウンに挑戦する。</p> <p>T: 耳栓をしてみて、どうだったかな？</p> <p>C: 言葉をかけても聞こえない人がいると、そろえるのが難しい。</p> <p>C: みんなの声が聞こえないと、いつ立って、いつすわるか、わからない。</p>	<p>○生活班（3～4人）で活動する。</p>
	<p>4 グループで話し合う。</p> <p>T: どうやったら、耳栓をしている人と上手にフラフープアップダウンさせることができるかな？</p> <p>C: 相手の肩をたたいて、合図を送る。</p> <p>C: 紙に書いて、それをさせながらやってみる。</p> <p>C: アイコンタクトでやってみる。</p> <p>5 話し合ったことを実践する。</p>	<p>○ホワイトボードを活用して、児童の意見をまとめていく。</p> <p>☆耳が不自由な体験を通して、障がいのある方について考えながら、進んで活動している。</p> <p>【観察・発言】</p>
まとめ	<p>6 本時の活動を振り返る。</p> <p>T: 今日、やってみて、分かったこと思ったことをプリントにみよう。</p> <p>C: 声が聞こえないから、友達をよく見たよ。</p> <p>C: 声以外で伝えるのが大変だった。</p>	<p>☆障がいのある方も含め、自分の周りには、様々な人が存在していることに気付いている。</p> <p>【ワークシート】</p>